

魅力満載!! 三江線

江の川沿いの風情



《22》

石見に春が訪れた。江の川沿いの山々に、淡いピンクの山桜があちらにもこちらにも、顔をのぞかせる季節だ。

長い冬を抜けると、待っているのは里山を彩るかれんな桜の花たち。田舎暮らしを始めて感動した景色はたくさんあるけれど、この山桜が私の一番好きな風景、毎年指折り数えて、春の訪れを待ちわびている。

山桜を眺めても、その感動をなかなか言葉では表せないけれど、地元のある人が「ああ、山が笑っている」と言ったとか。

石見の人の素朴で温かい人情を感じる言葉に思わず胸が熱くなる。そんな名もない無数の山桜があれば、「林堂」という立派な名前のついた由緒ある桜も、江の川沿いにはある。江津市川平町の「山本家のしだれ桜」だ。

桃山時代に中国から苗を取り寄せ、植えられたとのこと、樹齢は何と四百年。高さは約十五メートルに達し、幹回りは二メートル以上、根元から三本の大きな枝に分かれており、実に存在感がある。垂れた枝々は三十四



の長さで大きく広がって、満開の時には白い小花が美しく咲き誇る。今はもう空き家となっている山本家の蔵に寄り添うようにして立つ「林堂」は、まるで、静かな里山の守り本尊のようだ。四百歳という年齢のた

山本家のしだれ桜

樹齢400年 里山守る「本尊」



め、大きくなった幹を保つ子どもともいわれ、R川戸駅の桜並木も、まあ、支えがしてあるもの、時を経たからこそのおのずとにじみ出る風情と品格に息を飲む。ほかに、この季節は、う間に過ぎていく。この流域のあちこちで、桜を週末はぜひ、三江線で、楽しむことができる。私があるいは車を走らせ、江の川流域の桜を存分に楽しみ、江津市桜江町在住のNPO法人結まープラスの事務所があるJ しんでいただきたい。

私も、この週末は仲間たちと桜の木の下で、お花見を楽しむことにしている。

(NPO法人「結まープラス」・かわべまゆみ、江津市桜江町在住) 隔週土曜日掲載

樹齢約400年と伝えられる「山本家のしだれ桜」